

## 5

# 無私の情熱～モヨロ貝塚を世界へ発信～ 米村 喜男衛

## 【中学校第1学年の実践】

- 1 主題名  
社会の一員として 【C 社会参画、公共の精神】
- 2 教材  
無私の情熱～モヨロ貝塚を世界へ発信～ 米村 喜男衛（北海道版道徳教材（中学校用））

### 3 主題設定の理由【指導観】

#### (1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

社会参画の意識とは、共同生活を営む人々の集団である社会の一員として、その社会における様々な計画に積極的に関わろうとすることである。自分が生きている身の回りを含めた社会に関わることの意義の理解の下に、実際に関わっていこうとする態度を育てていくことが求められる。

第1学年の指導に当たっては、進んで社会的な責任を果たすために、どのような行動を取るべきかを主体的に考えさせるとともに、自分も社会の一員であるという認識のもと、社会に参画するとはどういうことかについて多面的・多角的に考えさせ、実際に社会に関わっていこうとする態度を育てていきたい。

#### (2) 生徒の実態【生徒観】

自分も社会の一員であるという認識のもと、実際に社会に関わっていこうとする態度を育てるために、道徳の時間（H31からは道徳科）以外では、次のような指導を行っている。

##### ①総合的な学習の時間「地域学習」

地域調べ（地域の自然、産業について理解する）や地域で活躍する人たちの講話を通して、地域貢献のために、一生懸命働いている人たちの思いを知り、社会の一員として、どのような責務を担っているのかを、生徒が地域における自己の生き方との関わりで考え、理解させる取組を行っている。

社会人としての気構えや社会に参画することの意義について理解させることはできているが、自分自身を社会人に置き換えて考えていくことについては難しさを感じる生徒が見られるため、職場体験学習と関連付けさせながら、生徒一人一人が将来の社会を担う大切な人材であり、一社会人として、周りとは協力し合いながらよりよい社会の実現に努めていかなければならないことを理解させる必要がある。

##### ②特別活動「生徒会活動・ボランティア活動」

生徒会が中心となって、全校生徒にアンケートを取り、よりよい地域づくりを目指して自分たちにできることを集約している。アンケート結果から、地域の福祉に関すること、環境美化に関すること、スポーツ行事など文化に関することのカテゴリーに分け、「地域貢献」のために、地域住民と連携してボランティア活動の取組を進め、社会の一員としての自覚を深めさせ、自分たちでできることを積極的に取り組んでいこうとする意欲を育てている。

ボランティア活動への参加を通して、人のために役立つことの素晴らしさや社会とのつながりを実感させることができたが、明確な目的をもち、主体的に自身がすべきことに取り組もうとする参画意識を高めさせることは不足しているので、社会における自身の役割を見つめさせたり、社会の一員として自分自身ができることを深く考えさせたりする必要がある。

#### (3) 教材について【教材観】

自分も社会の一員であるという認識のもと、社会の一員としての役割と責任について多面的・多角的に考えさせるために、「喜男衛は、網走でどんなことに、どのような気持ちで取り組んだのだろうか」という発問を通して、喜男衛の地域貢献の在り方について気付かせ、「なぜ、喜男衛は地域のために、これだけのことを多く行うことができたのだろうか。」という先哲の考えについて対話を促す発問を通して、喜男衛が地域のために社会貢献に取り組んだ思いについて話し合わせる。そこから進んで社会と関わっていくことの大切さに気付かせ、社会の一員としての役割と責任を果たしていくとはどういうことかを考えさせ、価値理解や他者理解を深めさせる。

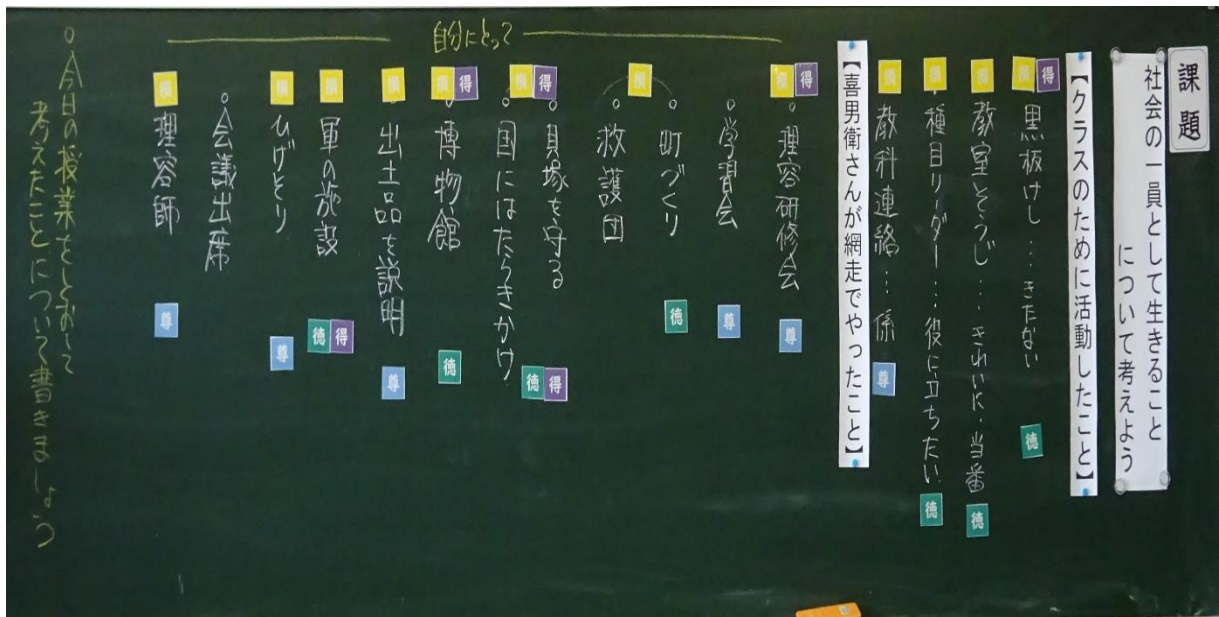
#### 4 ねらい

米村喜男衛の生き方を通して、進んで社会と関わっていくことの大切さに気づき、社会の一員としての役割と責任を果たしていこうとする態度を育てる。

#### 5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導入	● 学校生活における自分自身の行動について振り返らせる。 ○ あなたはクラスのためにどんなことを、どのような気持ちで行っていますか。 ・係活動を行っているが、嫌々行っている自分がある。 ・みんなの役に立ちたいから、進んで掃除をしている。 ・クラスのことは考えていなかった。	・ねらいとする道徳的価値への方向付けを図るため、今までの自分がクラスのためにしてきた行動について想起させる場を設ける。	<b>【工夫①】</b> ・学級における自分自身の仕事をどのような気持ちで行っているかを客観的に見つめ直すことで、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。
展開	● 教材「無私の情熱」を読み、話し合う。 ○ 喜男衛は、網走でどんなことに、どのような気持ちで取り組んだのだろうか。 ・考古学を研究するためには理容師として、働く必要がある。 ・地域の支えがあって考古学が研究できるので、もっと地域のために貢献したい。 ・人の役に立ちたい。  ◎ なぜ、喜男衛は地域のために、これだけの多くのことを行うことができたのだろうか。 ・地域の一人であるという自覚があったから。 ・地域の人たちの支えのおかげで、自分は研究に取り組むことができ、恩返ししたいから。 ・社会の一員として果たさなければならない役割であるから。	・喜男衛の立場に共感させ、純粋に考古学だけについて研究をしたいという気持ちと、地域のために貢献したいという気持ちの葛藤について、自分との関わりで考えさせる。  ・社会の一員として積極的に社会に関わり、自己の役割と責任を果たすことのよさについて多面的・多角的に考える場を設ける。	<b>【工夫②】</b> ・「喜男衛が地域のために多くのことを行ったのはなぜか」を問う中心的な発問から、社会の一員としてどのような関わりが大切か、多面的・多角的に考えさせる。
	● 自己を見つめる。 ○ 仕事など、自分の役割を果たすために必要なことは何だと思いますか。 ・「みんなのために」という気持ちをもつこと。 ・周りとは協力し合いながら取り組むこと。 ・自ら進んで、積極的に自分の仕事を行っていくこと。	・自分の仕事や役割について振り返らせ、ペアやグループの交流を通して価値理解、他者理解を深めさせ、今後の自分の生き方を深めさせる。 ■ 社会の一員としての役割と責任を果たすことの大切さについて、自分との関わりの中で考えを深めることができたか。	<b>【工夫③】</b> ・喜男衛の生き方から、進んで社会と関わることの大切さを自分事として捉え、今後、自分自身の仕事をすすめる上でどのような気持ちで取り組む必要があるかを深く見つめさせる。
終末	● 本時の学習を振り返り、学んだこと、考えたことについて交流する。 ※「社会との関わり」(私たちの道徳 中学校 P175~P177)を読む。	・今後、日常生活において、自分の仕事に誇りを持ち、主体的に取り組んでいこうとする実践意欲をもたせる。	<b>【工夫④】</b> ・ねらいとする道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを実感し、今後の自分自身の生き方を深く見つめさせる。

6 板書



7 ノート・ワークシート（振り返りの場面における生徒の記述）

**Aさん** ・喜男衛さんが町の人のために行った事は、町の人、自分にとって、とてもすばらしいことであると思った。人のためにすることの大切さを知り、自分もできることからやっていきたい。

**Bさん** ・クラスだけでなく学校全体のためにも、行動したいと思った。

**Cさん** ・もっと人のためにできることを考えて行動をする。

**【授業実践を振り返って】**

導入において、学校における自分自身の役割を想起させることで、ねらいとする道徳的価値についての課題を明らかにし、問題意識をもたせることができました。

また、社会の一員として積極的に社会に関わり、自己の役割と責任を果たすことのよさについて多面的・多角的に考えることができるよう、中心的な発問を吟味し、「なぜ、喜男衛は地域のために、これだけのことを多く行うことができたのだろうか」と問い掛けました。

生徒からは、

- ・地域の温かさに触れ、地域のために貢献したいという気持ちをもったから。
- ・地域の協力も得られ、みんなで助け合いながら取り組むことの素晴らしさを知ったから。
- ・社会の一員として、社会に貢献することの大切さを理解したから。

などの発言が見られ、進んで社会と関わり、積極的に取り組むこと大切さについて考えを深めることができました。